

第2号様式（第4条関係）

地域づくり総合支援事業（ふるさと・きずな維持・再生支援事業）
事業計画（変更計画）書

平成26年4月18日

一部修正 平成26年5月30日

1 実施主体

(1) NPO法人等が申請する場合

NPO法人等 (実施主体)	種別及び名称	特定非営利活動法人 Global Mission Japan		
	住所	いわき市平字尼子町2番地の7		
NPO法人等 (連携先)	種別及び名称	NPO FUKUSHIMA いのちの水 認定NPO とちぎ暮らし応援会 NGO「声なき者の友」の輪	担当者名	坪井永人 君嶋福芳 神田英輔
	住所	福島県郡山市安積1-3-5	電話番号	090-7079-5011
		栃木県宇都宮市昭和2-2-7 東京都立川市曙町3-27-9		028-623-3457 090-3036-2776

(2) 協議体が申請する場合

協議体の名称				
代表構成員の団体名 及び代表者職氏名				
構 成 団 体	都道府県・市区町 村名及び部課名		事業における 役割	
	民間非営利組 織の種別・名称		事業における 役割	
	住所		電話番号	

2 事業概要

事業名	「共有型復興支援事業」 総合ボランティアセンターの運営強化
総事業費	8,316,000 円 (うち希望補助金額 6,652,000 円)
事業の実施期間	平成26年6月1日から平成27年3月31日まで

注：補助対象期間は補助金の交付決定日からとなります。

3 事業計画

<p>地域における課題と事業の目的</p>	<p>被災地域の復興格差と根本解決の答えが出ないなか、問題も細分化して、また新たな課題も表面化しています。いわき市内に避難している方々はいまだに支援の必要から脱出できない状況が続いています。</p> <p>私どもはこれまでの活動を検証し、被災当事者、一般市民、行政、研究機関、ボランティア、NPO等と復興における課題を共有することを通して、創造力豊かな復興支援に取り組んでいきます。</p>
<p>事業の目標</p>	<p>「〇〇を〇〇以上にする」等、可能な限り数値を用いて記載してください。</p> <p>活動の特性から数値評価は難しい一面があります。</p> <p>地域全体の人間関係の豊かさを求め、活動が効率主義に陥らないように、信頼の向かい合いで協働のまちづくりを目指します。</p> <p>ソーシャルキャピタル・地域力の再生強化を下支えします。</p>
<p>事業内容</p>	<p>事業の内容、実施時期、実施場所（会場）、参集範囲及び参加予定人数等を具体的に記載してください。事業内容が複数に分かれる場合は、事業ごとに記載してください。</p> <p>* 仮設住宅巡回訪問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通し、平日の9時から17時までが活動時間帯です。（要望があれば土日祝対応） ・対象とする仮設住宅は下記の活動継続中の9ヶ所です。高久第一（薄磯地区）、常磐迎（広野町）、高久第四（広野町）、四倉工業団地（広野町）、鬼越（広野町）、上荒川（檜葉町）、小名浜林城（檜葉町）、泉玉露（富岡町）、平サロン（富岡町） ・個別訪問は各仮設住宅連絡員との連携・分担で全世帯を対象とし、声掛け・安否確認・傾聴などで、ひきこもり兆候の早期察知に努めます。増加する最悪のケースに至らないように、自治体担当課との情報共有に努めます。 ・集会所にて音楽・舞踊ボランティアなどによる慰問集会をします。例年10チーム程度。各20～30人程度参集していただけます。 ・各集会所におけるカルチャー教室の参加見込数は太極拳教室では3～15人・英会話等教室3～8人・大正琴教室3～4人・お茶会は5～20人の見込みです。 <p>* フードバンク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミネラルウォーターとフードロス食品を経済的補償が手薄な薄磯津波被災者宅に届けがてら、地域の方々の近況を分かち合い、帰還希望率50%以下と云われる地域のきずな維持の橋渡し役活動を行ないます。食材などは郡山市のNPO「FUKUSHIMA いのちの水」から供給され、いわき地区を担当します。 ・6月より実施予定です。 ・薄磯地区被災者の居住する借上住宅と仮設住宅を対象とします。中央台高久第一仮設、沼ノ内雇用促進住宅、沼ノ内復興住宅、薄磯復興住宅、内郷雇用促進住宅。 ・対象予定数当初100世帯程度を予定します 間接的被災者並びに社会的弱者に対してもその対象予定者とします。 <p>* ボランティアコーディネイト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当NPOに来訪するボランティア及び被災地視察者は年間1500名程度と見込んでいます。このうち数百名は私ども施設を拠点とし、宿泊して活動します。労働的奉仕よりメンタルケア的ふれあいが必要とされますので、毎朝のミーティングでは訪問先特有の課題など

の注意点が示され、実践を通してのボランティア育成を心掛けます。訪問先は前記仮設住宅ですが、事前に各自治体の担当課並びに現地連絡員さんと協議を行います。

- ・ジャーナリスト・研究機関の訪問もリピートして受けています。これまでに、アメリカ・オーストラリア・ドイツ・フランスなど多くの国内外メディアの方々の取材ベースとして使われ、今年度も受入れます。風評被害と風化防止のために発信を続けます。
- ・被災地を視察希望する方には、線量計を持参して富岡町から南下して久之浜町復興商店街に立寄り、薄磯津波被災地で地元の方によるお話しを伺う機会などを設けます。

*フィールドワーク

- ・今年度は復興住宅への引越しが行われるので、その手伝いを行い新生活への励ましと祝福を共に味わう機会とします。薄磯、沼ノ内、豊間復興住宅を主な対象とします。独り暮らしの高齢者世帯を優先して、年間20軒程度と見込んでいます。
- ・農家支援として稲作のプログラムが用意されています。震災被害と風評被害そして高齢の為一時稲作を休止していただきたいわき市下高久の農家を支えます。苗床作りは終わりましたので5月には田植え作業、8月は田の草取り10月までの収穫まで若い方の格好の体験学習となります。延100人程度が必要とされます。フィールドワークチームの農業経験者が付き添います。
- ・原発被災者自宅の片付け、清掃、草刈、修理など。放射線量の比較的低い広野町、檜葉町内で行います。年間数件程度と見込んでいます。

*アウトリーチプログラム

- ・狭隘な仮設住宅生活を余儀なくされている学童を夏休み・連休を利用して、林間学習交遊会を開催・招待します。東京都青梅市の奥多摩バイブル・シャレーなどの宿泊施設を利用します。夏休み期間と、春休み期間に10名程度を引率予定します。
- ・原子力発電所炉心見学ツアーを企画します。様々な意見が交錯する原発問題をそれぞれの視点で体験できる機会を提供します。世界唯一、完成後一度も稼働させなかったフィリピンのバターン原子力発電所(Bataan Nuclear Power Plant)を見学し、その背景・経緯を考察します。防護服無しで中央制御室や炉心が見学できます。初年度は20名程度を予定し経過を見ながらスタディツアーとして継続します。
- ・スタッフのスキルアップ
自治体、NPOサポートセンターなどの研修会を積極的に活用して、課題の共有と解決の糸口を見つける機会とします。その学びが日常活動に反映され、実践できる働き手としての意識づけをします。理事、常勤職員、パート職員を積極的に参加させます。当NPOの目的である、「事業は人間の尊厳を尊ぶ真の愛に基づいて行う」を基本に貴重な人財の一人ひとりの意識向上に努めます。

*文化・芸術交流

心の平安と感動を提供します。

- ・市民クリスマス会共催 12月23日予定 いわき市内(場所未定)
参集見込み200人 (子供たちを招いての子どもクリスマス会も同時期に開催します。)
- ・復興支援コンサート共催 27年3月予定 いわきアリオス 参集見込み400人(本年3月実施時来場者369人)
- ・復興支援絵画展共催 27年3月予定 いわき文化センター 参

	<p>集見込み 300人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・随時当センターにおいてミュージシャンボランティアによるコンサートを開催します。参集見込み20～50人/回
見込まれる成果	<p>1. 本県の復興支援・被災者支援の観点</p> <p>事業によって見込まれる成果について、直接的な効果と波及効果の観点の2つの観点で記載してください。被災者支援の場合は、特に、本事業により支援を受けた被災者の延べ人数を記載してください。</p> <p>(直接効果)</p> <p>きめ細かい顔の見える対応により、安否確認と住民同士のきずな維持には大きな効果が期待できます。一括りの事業提供では得られない一人ひとりの繊細な反応がキャッチでき、課題と解決手段が明確になります。</p> <p>被災者の方々の支援のための交流は年間延数千人から一万人になると推測します。</p> <p>Fukushima を世界に発信し続け、風評被害払拭と復興の遷り変りをリアルタイムで伝えられます。</p> <p>(波及効果)</p> <p>現状の町村ごとのきずな維持がやがて避難地のいわき市民との交わりの中で、大きな繋がりとなり垣根を超えた福島全体の復興へと広がるでしょう。</p> <p>2. 取組実施主体の運営力強化の観点</p> <p>取組内容により、取組実施主体においてどのように運営力強化が図られるのか記載してください。</p> <p>これまでの救援・支援活動は大量物資・人海戦術・即効性が要求され統一性、効率性に足りない部分がありました。</p> <p>今後は共有型として多面的な連携により、幅広い知識とチームワーク力が備わった体制が必要となります。スタッフはセクト意識を乗り越え、活動をオーバーラップすることでスキルアップに繋がることとなります。</p> <p>最前線の活動情報は広域・末端まで迅速に伝えることが可能となり、情報共有による連携は総合力の強化に繋がります。</p>
事業スケジュール	<p>いつ、どのような活動を行うのか、事業の進め方、段取りがわかるように記載してください。</p> <p>*仮設住宅巡回訪問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月曜から金曜（要望により土・祝日有）9時より17時の就業時間内の仮設巡回訪問が日常活動となり、各連絡員さんとの連携分担で安否確認、奉仕要望の収集、ボランティアの受入れ調整などを行う。太極拳教室はすでに継続して実施しており、各所ローテーションで開催する。会話教室は月1～4回を各仮設の受講者に合わせて、基本日程を定め、海外ボランティアとの交流の場づくりを適宜提供します。各自治会主催のシーズン行事には若い人手が必要とのことで、その都度積極的に派遣していきます。 ・カフェはすでに保健所の営業許可を取得しており、すでに実施中です。 <p>*フードバンクプログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPO「FUKUSHIMAいのちの水」とのフードバンクプログラムは5月に協議会を開き、配布量、対象者の特定などを取り決め、6月から配布開始します。補償なき津波被災者の薄磯地区の方々にお届けし、復興工事の情報などをお伝えし帰還後のビジョンで励まします。 <p>*ボランティアコーディネイト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認定NPO「とちぎ暮らし応援会」の薄磯語り部とのワークショップは6月21日と7月12日の二回開催します。 ・昨年5月から9月迄で年間ボランティア受入れのうち75%がこの時期であり、今年度もこの間に集中することとなります。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5月末から米国 ORU 大学生10人程度を二週間受入れます。夏休み期間には、愛知県小牧市から数名の中高校生を受入れます。その他申入れは例年これからの時期に増えてきます。 ・ 事業期前ですが4月16日から20日まではハワイから著名なウクレレ奏者 Roy Sakuma 氏が訪れます。昨年に続いて二度目となり、南台仮設にて演奏慰問を行います。昨年の訪問で仮設内にウクレレ愛好会が発足し今も継続しています。コラボ演奏が行われます。市内中学校での励まし講演もします。 ・ 過去のデータから年間数百人以上が当 NPO に宿泊滞在して活動する見込みです。ルーミング・オリエンテーションなど受付業務も増加します。被災者との接し方は毎朝のミーティングで注意点を伝達しメンタルケアの配慮の仕方を認識してもらいます。 <p>*フィールドワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 復興住宅への引越し手伝いは、各仮設集会所に希望者を募る表示を掲示し、仮設連絡員さんを通じて依頼者ごとに対応します。 ・ 農家支援はすでにスタートしていますので、農作業時期に合わせてボランティアの人員調整をして活動します。5月中旬には田植えが予定されており、5名/日を派遣します。10月の稲刈りまで適宜継続します。 ・ 被災者自宅の片付けは各仮設連絡員さんにこの活動を周知してもらい、要望受付の窓口になっていただきます。 ・ 本活動は不定期に希望者が現れますので、責任者（チーフ）以外は数パート要員を確保し、常勤スタッフも動員するなどして柔軟に対応します。 <p>*アウトリーチプログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年8月に引率経験者のメンタルケアチーフが責任者として実施します。7月上旬に各仮設に募集告知します。協賛金も提供する予定です。 ・ 原子力発電所炉心見学ツアー 復興支援活動従事者、外郭団体関係者、一般市民の方々を対象に募集します。9月中旬以降に実施できるように、受入れ体制・費用・補助制度などの確認をしつつ6月告知します。現地マニラには協力者によりホームステイ先がすでに用意されています。 ・ スタッフのスキルアップ NPO サポートセンター、いわき市市民協働課などの情報発信に傾注し、スタッフへの情報回覧を随時行います。 																																							
事業実施体制	<p>事業の実施責任者、会議体の構成員の名称及び役割分担等を記載してください。 複数の団体が連携して申請する場合は、連携の具体的な内容についても記載してください。</p> <p>責任者 理事長 森 章（総括） 事務局 副理事長 小野 泉（総務）</p> <p>事業直接担当</p> <table border="0"> <tr> <td>西小野健</td> <td>有専</td> <td>ボランティアコーディネイト・仮設・メンタルケアチーフ</td> </tr> <tr> <td>曹心寧</td> <td>有専</td> <td>仮設・英会話・韓国語講師</td> </tr> <tr> <td>野村優子</td> <td>有専</td> <td>仮設・英会話・中国語講師</td> </tr> <tr> <td>蛭田英明</td> <td>有非</td> <td>仮設・太極拳・大正琴教室講師</td> </tr> <tr> <td>小野 勉</td> <td>有専</td> <td>フィールドワークチーフ</td> </tr> <tr> <td>西小野聖子</td> <td>有専</td> <td>カフェ パティシエ 有調理師免許</td> </tr> <tr> <td>森 主悦</td> <td>有非</td> <td>ボランティアコーディネイト・フィールドワーク・英会話講師</td> </tr> <tr> <td>森 泉美</td> <td>有非</td> <td>カフェ カフェ・英会話講師</td> </tr> <tr> <td>箕輪一秀</td> <td>有非</td> <td>フィールドワーク</td> </tr> <tr> <td>小野修一</td> <td>有非</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>蛭田民子</td> <td>有非</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>戸田仁美</td> <td>無非</td> <td>文化・芸術 ボランティアコーディネイト 仮設</td> </tr> <tr> <td>戸田 潤</td> <td>無非</td> <td>文化・芸術</td> </tr> </table>	西小野健	有専	ボランティアコーディネイト・仮設・メンタルケアチーフ	曹心寧	有専	仮設・英会話・韓国語講師	野村優子	有専	仮設・英会話・中国語講師	蛭田英明	有非	仮設・太極拳・大正琴教室講師	小野 勉	有専	フィールドワークチーフ	西小野聖子	有専	カフェ パティシエ 有調理師免許	森 主悦	有非	ボランティアコーディネイト・フィールドワーク・英会話講師	森 泉美	有非	カフェ カフェ・英会話講師	箕輪一秀	有非	フィールドワーク	小野修一	有非	〃	蛭田民子	有非	〃	戸田仁美	無非	文化・芸術 ボランティアコーディネイト 仮設	戸田 潤	無非	文化・芸術
西小野健	有専	ボランティアコーディネイト・仮設・メンタルケアチーフ																																						
曹心寧	有専	仮設・英会話・韓国語講師																																						
野村優子	有専	仮設・英会話・中国語講師																																						
蛭田英明	有非	仮設・太極拳・大正琴教室講師																																						
小野 勉	有専	フィールドワークチーフ																																						
西小野聖子	有専	カフェ パティシエ 有調理師免許																																						
森 主悦	有非	ボランティアコーディネイト・フィールドワーク・英会話講師																																						
森 泉美	有非	カフェ カフェ・英会話講師																																						
箕輪一秀	有非	フィールドワーク																																						
小野修一	有非	〃																																						
蛭田民子	有非	〃																																						
戸田仁美	無非	文化・芸術 ボランティアコーディネイト 仮設																																						
戸田 潤	無非	文化・芸術																																						

	山本昇平 無非 文化・芸術・フードバンク
事業終了後の 展 開	事業終了後、会議体の取り組みをどのように継続し、または発展させるのかを記載してください。 多くの繋がりの中かで被災地での地域性を活かしたコミュニティビジネスを企画し、被災地域の経済活動の活性化に寄与していきます。
事業の先進性・ 普及性	どのような先進性を有するか、どのようにして他のモデルとなるのかを記載してください。 原発事故が世界中からその推移を注目されているなか、被災者を取り巻く様々なことを伝えることができます。国際化と云われて久しい中でも特に海外発信力とコミュニケーション力は自負できます。 2015年5月いわき市で開催予定の「太平洋・島サミット」をもすでに視野に入れ、あらゆる機会を復興のために取り入れる柔軟な新進の姿勢は他のモデルになればと期待します。
特記事項	特に説明しておきたい事項、アピールポイント等ありましたら記載してください。

※用紙が足りない場合は、適宜追加してください。

※地域社会にとっての必要性（ニーズ）について確認できる資料（新聞の切り抜きやアンケート結果等）がある場合は、A4用紙1枚（両面可）に限り添付できます。

第3号様式（第4条関係）

地域づくり総合支援事業（ふるさと・きずな維持・再生支援事業）
収 支 予 算 書

申請者名 特定非営利活動法人 Global Mission Japan

【収入の部】

（単位：千円）

区 分	平成26年度 予 算 額	明 細
ふるさと・きずな維持・再生 支援事業補助金	6,652	
自己資金（負担者名）	1,664	
会員会費	500	現正会員10名・賛助会員47名。年内に賛助会員 を100名以上に勧誘中。
寄付金	1,164	昨年実績4,300千円
事業収入	0	
その他収入	0	
収入合計	8,316	

【支出の部】

（単位：千円）

区 分	平成26度 予 算 額	明 細
人件費（共済費を含む）	6,800	以下別紙明細書参照
報償費	186	
旅費	350	
需用費	400	
消耗品費	100	
燃料費	200	
印刷製本費	100	
修繕費	0	
役務費	230	
通信運搬費	200	
手数料	30	

保険料	0	
使用料及び賃借料	150	
委託料	200	
支出合計	8,316	

注1 用紙の大きさは、A列4番とすること。欄が足りない場合は、適宜追加してください。

注2 「明細」欄には各区分の積算内訳として、名称、数量、単価、金額を必ず明確に記載すること。なお、「明細」については別紙として添付しても差し支えない。仕様については別途資料を添付すること。

注3 行政による他の補助事業も併せて利用する場合は、各補助金の使途を明確に区分し、この資金計画には、ふるさと・きずな維持・再生支援事業補助金を使用する部分の収支のみ記載すること。他の補助事業にかかる収支についてはこの資金計画には計上せず、別様式にて収支予算書を添付すること。また、他の補助事業の内容が分かる補助金交付要綱、要領等、使途の区分が分かる資料を添付すること。

収支予算書明細書

人件費

有給専従職員

160,000円/月×10ヶ月×3名

4,800,000円

有給専従パート

8,000円/日×延べ250日

2,000,000円

報償費 アーティスト他延20人 9,300円×20日間 186,000円
年間 186,000円/年

旅費 講師旅費

講師アーティスト等 100,000円

スタッフ研修等 50,000円

アウトリーチ

被災学童学習交流 2万円/人×10名 200,000円

年間 350,000円/年

需用費

消耗品 100,000円 事務用品・車両関係

燃料費 200,000円

印刷製本費 100,000円

年間 400,000円/年

役務費

通信運搬費 運搬の為のトラックレンタル料 10回 200,000円

手数料 30,000円

年間 230,000円/年

使用料及び賃借料

会場費 アリオス・文化センター 150,000円

年間 150,000円/年

委託料

広告費 催し物告知 200,000円

年間 200,000円/年

年間総額 8,316,000円/年